

「脱炭素社会ぎふ」・森林吸収量認証制度 (G-クレジット制度)

モニタリング報告書

プロジェクトの名称: 本巣市・樹齢1500年「淡墨桜」の里の豊かな水と森を未来につなぐ

プロジェクト 実施者名	もとす郡森林組合
----------------	----------

検証申請日 西暦 2024 年 6 月 28 日

認証申請日 西暦 2024 年 8 月 5 日

3 排出削減量

3.1 モニタリング結果の概要 ※1

モニタリング方法の変更	変更あり ※2 ○ 変更なし
モニタリングの頻度	○ プロジェクト計画書に記載したモニタリング計画に記載された頻度を満たした プロジェクト計画書に記載したモニタリング計画に記載された頻度を満たしていない (「満たしていない」を選択した場合、その概要及び講じた対応を記載すること)
結果の概要	主に以下の理由により、計画量(187t-CO2)を上回る吸収量となった。 ・一部の森林の林齢が低かったため。 ・一部の森林の地位が高かったため。 ・一部の森林の樹種がスギであったため。

※1 モニタリング結果の詳細は「5.1 モニタリング実績」に記載すること。

※2 1.1において記載した変更のうち、モニタリング方法に関する変更がある場合については、本項目を選択すること。

3.2 吸収量の算定

-				
適用方法論	区分	方法論番号	方法論バージョン	方法論名称
	GFO	GFO-01	ver. 1.0	森林管理活動
ベースライン	吸収量 ※1			0 t-CO2
プロジェクト実施後	吸収量 ※1			265.6 t-CO2
	排出量 ※1			0 t-CO2
	吸収量 ※2			265 t-CO2
	吸収量の累計 ※3			265 t-CO2

※1 ベースライン吸収量及びプロジェクト実施後吸収・排出量は、小数点第二位以下は四捨五入し、小数点第一位まで記載すること。また、算定結果の詳細は5.2吸収量の算定方法(GFO-01用)に記載すること。

※2 吸収量については小数点第一位以下を切り捨てし、整数で記載すること。

※3 認証対象期間の吸収量の累計値を記載すること。なお、バッファ管理口座分(プロジェクトから発行されるGークレジットのうち3%)を差し引く前の吸収量の累計値とする。

4 プロジェクト計画書の添付

※ 登録済みのプロジェクト計画書を添付すること。

5.1 モニタリング実績 ※1 ※2

フルダウンにて選択するセル

入力するセル

モニタリング方法 ※3

必要な場合のみ記入するセル

入力しないセル

記号	定義	単位	概要	モニタリング項目			計量器			備考
				詳細	頻度	計量器の種類	精度	計量器の校正方法の説明		
Area _{Forest}	森林施業が実施された森林の面積 (森林の面積に0.9を乗じた値)	ha	実測(コンパス・GPS 測量併用)	補助受給の際にコンパス・GPS測量 器により測量した面積を使用 (使用する収穫予想家の名称を記載するこ と) 岐阜県林政部 人工林林分収獲表	初回検証申請時に1回 検証申請時に1回	コンパス、 GPS測量器	閉合差1/100以内 座標値3m以下	メーカーの推奨する方法に従う。		
ΔTrank _{Sci}	(年間)幹材積成長量	m ³ /ha	収穫予想表等	(使用する収穫予想家の名称を記載するこ と) 岐阜県林政部 人工林林分収獲表	検証申請時に1回	-	-	-		
Trank _{Sci,est}	幹材積量	m ³ /ha	収穫予想表等	(使用する収穫予想家の名称を記載するこ と) 岐阜県林政部 人工林林分収獲表	検証申請時に1回	-	-	-		
WD _i	容積密度	t/m ³	デフォルト値	G-クレンジット制度 モニタリング・算定規定 使用	検証申請時に最新のものを 使用	-	-	-		
BEF _i	拡大係数	-	デフォルト値	G-クレンジット制度 モニタリング・算定規定 使用	検証申請時に最新のものを 使用	-	-	-		
CF	炭素比率(炭素含有率)	-	デフォルト値	G-クレンジット制度 モニタリング・算定規定 使用	検証申請時に最新のものを 使用	-	-	-		
R _{main,i}	地下部率	-	デフォルト値	G-クレンジット制度 モニタリング・算定規定 使用	検証申請時に最新のものを 使用	-	-	-		
i	地位等による階層	-	航空レーザー計測	(地位算定のためのモニタリングプロット は、設定箇所を森林計画図・オルソ画像、 空中写真等を用いて別途資料として示すこ と) 岐阜県が実施した航空レーザー測量データの 解析による立木データを活用し、地位線の 判定を行う	初回検証申請時に1回	(胸高直径の測定に使用する計量器を記 載) 航空レーザー計測の場合、胸高直径の計測 は不要である。 (樹高の測定に使用する計量器を記載) 岐阜県の航空レーザー解析データを使用	-	(モニタリングプロットを設定する場 合) 適地がない場合、1ha未満の林小 班にモニタリングプロットを設定す る。	測量日毎に測量前にキャリブレーションを実施	

※1 プロジェクト登録申請日以降モニタリング方法に変更がない場合は、プロジェクト計画書と同じ内容を記載する。

※2 面積、胸高直径、樹高の算出結果の野帳等は、検証機関や制度管理者から要求があった場合に提出できるように準備しておくこと。

※3 モニタリングエリアごとに異なるモニタリング方法を適用する場合には、行を追加した上でモニタリングエリアごとに記載すること。

5.2.吸収量の算定方法

選択するセル

入力しないセル

5.2.1 本報告において認証を申請する期間

【開始日】

【終了日】

認証を申請する期間	2023年04月01日 ~	2024年03月31日
-----------	---------------	-------------

※1 認証を申請する期間は、認証対象期間(プロジェクト開始日の含まれる年度の4月1日から、同日より8年を経過する日で設定)内であり、過去の検証済み期間、検証申請日以降の期間、他の類似制度への認証申請の対象期間の何れとも重複がないこと。

5.2.2 吸収量

$$C_{total} = C_{PJ} - C_{cut} - C_{BL}$$

記号	定義	単位
C_{total}	当該年度の吸収量	tCO2
C_{PJ}	当該年度のプロジェクト実施後吸収量	tCO2
C_{cut}	当該年度のプロジェクト実施後排出量	tCO2
C_{BL}	当該年度のベースライン吸収量	tCO2

年度	当該年度のベースライン吸収量※3	当該年度のプロジェクト実施後吸収量(総吸収量)※1	当該年度のプロジェクト実施後排出量※2	当該年度のモニタリング期間	当該年度のプロジェクト実施後吸収量(純吸収量)
	C_{BL} (tCO2)	C_{PJ} (tCO2)	C_{cut} (tCO2)	(日)	C_{total} (tCO2)
2023年度	0.0	265.6	0.0	366	265
2024年度	0.0	257.5	0.0	0	257
2025年度	0.0	254.3	0.0	0	254
2026年度	0.0	254.2	0.0	0	254
2027年度	0.0	253.3	0.0	0	253
2028年度	0.0	242.4	0.0	0	242
2029年度	0.0	234.4	0.0	0	234
2030年度	0.0	230.0	0.0	0	230
合計	0.0	1,991.7	0.0	366	1,989

※1 当該年度のプロジェクト実施後吸収量は、5.2.3に記載の当該年度のプロジェクト実施後吸収量が記載される。

※2 当該年度のプロジェクト実施後排出量は、5.2.4に記載の当該年度のプロジェクト実施後排出量が記載される。

※3 当該年度のベースライン吸収量は、5.2.5に記載のベースライン吸収量が記載される。

5.2.3 プロジェクト実施後吸収量

$$C_{PJ} = C_{PJ,AG} + C_{PJ,BG}$$

記号	定義	単位
C_{PJ}	当該年度のプロジェクト実施後吸収量	tCO2
$C_{PJ,AG}$	当該年度の地上部バイオマス中の吸収量	tCO2
$C_{PJ,BG}$	当該年度の地下部バイオマス中の吸収量	tCO2

年度	当該年度の地上部バイオマス中の吸収量 $C_{PJ,AG}$ (tCO2)	当該年度の地下部バイオマス中の吸収量 $C_{PJ,BG}$ (tCO2)	当該年度のプロジェクト実施後吸収量 (総吸収量) C_{PJ} (tCO2)
2023年度	211.3	54.3	265.6
2024年度	204.8	52.7	257.5
2025年度	202.3	52.0	254.3
2026年度	202.2	52.0	254.2
2027年度	201.5	51.8	253.3
2028年度	192.8	49.6	242.4
2029年度	186.5	47.9	234.4
2030年度	183.0	47.0	230.0
合計	1,584.4	407.3	1,991.7

※1 当該年度の地上部バイオマス中の吸収量及び当該年度の地下部バイオマス中の吸収量の詳細については、(別紙)吸収量算定シートに記載する。

5.2.4 プロジェクト実施後排出量

$$C_{cut} = C_{cut,AG} + C_{cut,BG}$$

記号	定義	単位
C_{cut}	当該年度のプロジェクト実施後排出量	tCO2
$C_{cut,AG}$	当該年度の地上部バイオマス中の排出量	tCO2
$C_{cut,BG}$	当該年度の地下部バイオマス中の排出量	tCO2

年度	当該年度の 地上部バイオマス 中の排出量 $C_{cut,AG}$ (tCO2)	当該年度の 地下部バイオマス 中の排出量 $C_{cut,BG}$ (tCO2)	当該年度の プロジェクト実施後 排出量 C_{cut} (tCO2)
2023年度	0.0	0.0	0.0
2024年度	0.0	0.0	0.0
2025年度	0.0	0.0	0.0
2026年度	0.0	0.0	0.0
2027年度	0.0	0.0	0.0
2028年度	0.0	0.0	0.0
2029年度	0.0	0.0	0.0
2030年度	0.0	0.0	0.0
合計	0.0	0.0	0.0

※1 当該年度の地上部バイオマス中の排出量及び当該年度の地下部バイオマス中の排出量の詳細については、(別紙)排出量算定シート(GFO-01)に記載する。

5.2.5 ベースライン吸収量の考え方

(1) ベースライン吸収量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン吸収量は、2012年4月以降に森林施業(保育、間伐)を行った人工林の面積において、2012年4月以降適切な森林経営がなされなかった場合の吸収量とする。

(2) ベースライン吸収量の算定式

$$C_{BL} = 0$$

記号	定義	単位	想定値
C_{BL}	当該年度のベースライン吸収量	tCO2	0